

公益社団法人 周南青年会議所 2015年度

JAYCEE 確立委員会

委員長所信・基本方針

JAYCEE 確立委員会 委員長 久次 昌志

古代でも中世でも自然こそ神々であるとされ、人間は自然によって生かされてきました。歴史の中の人々は、自然をおそれ、その力をあがめ、自分たちの上にあるものとして身をつつしんできた。この態度は、近代や現代に入って少しゆらいでいるのではないのでしょうか。二十世紀という現代は、ある意味では、自然へのおそれがうすくなった時代。二十一世紀になって十年以上が経過した今、科学と技術が更に発展し、人々の考えや価値観にも多くの変化をもたらしています。しかし、いくら発達しても「人間は、社会をつくって生きている。」という部分は変えることができません。社会とは、支え合う仕組みということ。人間は、決して孤立して生きられるようにはつくられていません。このため、助け合う、ということが、人間にとって大きな道德であり社会を作っています。

これはJ Cという社会の枠内でも同じです。助け合うという気持ちや行動の根にあるのは、いたわりという感情。他人の痛みを感じることに、やさしさ、とも言えることができるでしょう。「いたわり」「他人の痛みを感じることに」「やさしさ」みな良く耳にする言葉です。しかし私たちが有するこの感情は本能ではありません。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならないのではないのでしょうか？

J Cが常に社会の中で明日を期待されるリーダーとして市民を動かし、新しい社会を創造し、開発してゆくためには、自ら一市民として社会開発の実践の場を通じて自己を確立することが必要なのです。

鎌倉時代の武士たちは、「たのもしさ」ということを、大切にしてきたそうです。人間は、いつの時代でもたのもしい人格を持たねばならない。人間というのは、男女とも、たのもしくない人格に魅力を感じない。助けあうという規律を訓練することで、自己が確立され、そして、“たのもしいと感じられる人”になっていくのだと思います。そういった会員個人のたのもしさ、つまり、JAYCEEの確立こそがL OMの魅力向上、さらにはより明るい豊かな社会の形成に必ず直結すると考えます。

〔事業計画〕

- ・ 2月度例会内委員会アワー
- ・ 9月度例会内委員会アワー
- ・ 会員向け研修事業